

1 学年 保健体育科学習指導案

単元名：球技【ゴール型・バスケットボール】

指導者：

- 1 日 時 : 令和5年1月23日(月) 第5校時
- 2 場 所 : 体育館
- 3 学年・学級 : 第1学年2組(33名)
- 4 単元名 : 球技【ゴール型・バスケットボール】

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領 体育分野の E 球技の内容である。球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。(ア) ゴール型の第1学年では、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的なボール操作と仲間と連携した空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を展開できることをねらいとしている。その際、攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること、球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについて話し合いに参加しようとする、仲間の学習を援助しようとする、健康・安全に留意することができる単元である。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、令和4年12月の「hyper-QU 学級集団理解シート」の結果。全国的な傾向と比較すると、承認得点は全体的に高く、生徒たちは緊張感も比較的少なく自由に活気のある生活や活動をしているとある。承認得点を計測するアンケートの、「クラスで行う活動には積極的に取り組んでいる」の質問では、89.7%の生徒が肯定的な回答をした。「班活動で友人が失敗した時は、許している」の質問では、100%の生徒が肯定的な回答をしたため、クラスやグループでの活動は、失敗を恐れずに活動するうえで有効だと考えられる。

体育に関するアンケートでは、「体育の授業が好きである」「運動が好きである」の質問に対して肯定的な回答をした生徒が90%近くいた。授業でも、運動やスポーツに対して積極的に楽しむ様子があることから、残り10%、運動や体育に関して消極的な生徒をどう巻き込む雰囲気を作るかが重要である。自由記述欄の「バスケットボールの授業で不安なことは何ですか？」の質問では、「突き指」が4人いた。ボールをキャッチする手の形などの指導が必要である。さらに、「バスケットボールが上手くできるかが不安」という記述が2人あった。上手くできなくても、取り組む姿勢を褒めることや、失敗をしても良い雰囲気作りを心がけたい。

(3) 指導観

授業におけるルールやマナーを事前に提示し、好ましい行動や表現方法を指導する。特にグループでの話し合いの場面では、①友達の話は最後まで聞く、②友達の意見は批判せず受け入れ議論する、の2点を徹底させることにより、自分の思いを上手く伝えることのできない生徒たちが安心して活動できるようにしたい。

運動面では積極的に活動できるように、仲間が失敗した時の声かけや行動の具体例を提示しておく。「ドンマイ」や「大丈夫」など失敗を受け入れる声や、「ナイス」や「上手い」など仲間を褒める声かけを促し、運動に対して消極的な生徒も積極的に活動できるような雰囲気作りを行う。

空間に仲間と連携して走り込み、マークをかわしてゴール前で攻防ができるようにし、仲間と攻防を展開する楽しさを味わわせたい。始めはバスケットボールの特性や歴史などの知識や、パス・ドリブル・シュートなどの基本的なボール操作を指導する。さらに、攻撃側が有利な条件で行う1対1や、攻撃側が2名いる2対1などで、どこに空間があるのかを把握しやすい練習を行う。また、技能レベルが高い選手が空間に走り込む映像を視聴させることも有効だと考える。その際、練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどを大切にし、学習の安全を守りながら積極的に活動できるようにしたい。

(4) 本单元において育成しようとする資質・能力

本校で育成しようとする資質・能力は以下の4点である。

【知識及び技能】	
【思考力、判断力、表現力等】	① 伝える力 ② 問題解決能力
【学ぶに向かう力、人間性等】	③ 協働する力 ④ 公共心

この中から、本单元で育成しようとする資質・能力は次の2点に重点を置くものとする。

【思考力、判断力、表現力等】 ① 伝える力

・提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えることができる。

【学ぶに向かう力・人間性等】 ③ 協働する力

・マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとすること。

5 単元の目標と評価規準

○ 単元の目標

①勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、仲間と連携して空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を展開できる。**【知識・技能】**

②提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えることができる。**【思考力・判断力・表現力】**

③フェアなプレイを守ろうとする。**【主体的に学習に取り組む態度】**

【単元を貫く問い】 バスケットボールで勝敗を競う楽しさや喜びを味わうためにはどうすれば良いだろう？

○ 単元の評価規準

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
<p>○バスケットボールで用いられる技術には名称があり, それらを身に付けるためのポイントがあることができる。【知識】</p> <p>○ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。【技能】</p>	<p>○提示された動きのポイントやつまづきの事例を参考に, 仲間の課題や出来映えを伝えることができる。</p> <p>○練習やゲームの場面で, 最善を尽くす, フェアなプレイなどの良い取組を見つけ, 理由を添えて他者に伝えることができる。</p>	<p>○マナーを守り, 相手の健闘を認めたりして, フェアなプレイを守ろうとしている。</p> <p>○健康・安全に留意してプレイしようとしている。</p>

6 指導と評価の計画 全時間 (本時は5/8)

◎ 単元観・生徒観・指導観を踏まえ、評価の場面や評価方法を計画する。

時数	学習内容(時数)	評価					
		知技	思判表	主体	評価規準	評価方法	資質・能力(評価方法)
1	○オリエンテーション ・流れ, ルール, 目標			○	○健康・安全に留意してプレイしようとしている。	行動観察	
2	○ボール操作 ・レイアップシュート ・ゴール下シュート ○空間に走り込む動き ・1対1 ・2対1			○	○マナーを守り, 相手の健闘を認めたりして, フェアなプレイを守ろうとしている。	○行動観察	○協働する力(行動観察)
3	○ボール操作 ・レイアップシュート ・ワンハンドシュート ・パス ・ピボット ○空間に走り込む動き ・1対1 ・2対1			○	○健康・安全に留意してプレイしようとしている。	○行動観察	
4	○ボール操作 ・レイアップシュート ・ワンハンドシュート ・パス ・ピボット ○空間に走り込む動き ・1対1 ・2対1→2対2 ・3対2→3対3		○		○練習やゲームの場面で, 最善を尽くす, フェアなプレイなどの良い取組を見つけ, 理由を添えて他者に伝えることができる。	○行動観察 ○ワークシート	
5	○ボール操作 ・レイアップシュート ・ワンハンドシュート ・パス ・ピボット		○		○提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に, 仲間の課題や出来映えを伝えることができる。	○行動観察 ○ワークシート	○伝える力(行動観察・ワークシート)

	○空間に走り込む動き ・2対1→2対2 ・3対2→3対3 ○ペア活動					
6	○実技テスト ・レイアップシュート ・ゴール下シュート	○			○ゴール方向に守備者がいない位置でシュートができる。	○実技テスト
7	○リーグ戦①			○	○健康・安全に留意することができる。	○行動観察
8	○リーグ戦②			○	○マナーを守り、相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ることができる。	○行動観察 ○ワークシート

7 本時の展開

(1) 本時の目標

仲間の試合を見て、課題や出来映えをペアにワークシートを使って、伝えることができる。

【単元を貫く問い】バスケットボールで勝敗を競う楽しさや喜びを味わうためにはどうすれば良いだろう？

(2) 観点別評価規準

◎提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えることができる。

評価方法：行動観察，ワークシート

(3) 育成したい資質・能力の評価基準

資質・能力	評価基準（例）
①伝える力	A 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを3つ伝えることができる。 B 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを1つ伝えることができる。 C Bを満たさない。

(4) 準備物：バスケットボール3個，コーン8個，笛，ホワイトボード

(5) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項（・） （努力を要する生徒への指導の手立て◆）	評価規準 ○教科の事項 ☆資質・能力 （評価方法）
導入 15	○集合・整列・号令 ○本時の目標	・素早く行わせる。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>【本時の目標】 仲間の試合を見て、課題や出来映えをペアにワークシートを使って、伝えることができる。</p> </div>		
展開 20	○準備体操・運動 ○基本的なボール操作 ・レイアップシュート（6本） ・ワンハンドシュート（6本） ・パス（10回ずつ） ①チェストパス ②ショルダーパス ③オーバーヘッドパス ・ピボット	・よく伸ばすように伝える。 ・危険なボールがないか注意して観察する。	
	○ハーフコートの2対1（2分） ○集合・活動の説明 ・ペアの練習を見て、課題や出来映えを伝える活動を行う。 ・ワークシートを配布する。 ・チーム内で2人1組を作り、A・Bに分かれる。	・素早く集合させる。	
<div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>【主体的・対話的な学びの時間】 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えることができる。</p> </div>			
	○オールコートの2対1→2対2（3分） ・Aグループが練習している時は、Bグループが観察する。3分経過したら入れ替える。（2周） ・ペアを観察しながらワークシートに課題や出来映えを記入する。 ・3分経過したら、観察や記入したことを元に課題や出来映えを伝える。	◆空間を把握できずプレーしている生徒が多い場合は、「どこに空間があるか探してみよう」と声をかける。 ・観察するペアにはプリントに記入してあるポイントを参考に記入させ、話してペアに伝えさせる。	○提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えることができる。（行動観察）

	○オールコート 3対2→3対3 ・時間があれば行う。		
ま と め 15	○片付け ○ワークシート記入 ○号令	◆文章の記入が難しい生徒には、A・B・Cの記入だけでもさせる。	☆伝える力（ワークシート） A：課題や出来映えを3つ記入できている。 B：課題や出来映えを1つ記入できている。 C：Bを満たさない。

(6) 板書計画

<p>ゴール バasketボールの<u>楽しさ</u>を味わうこと。</p> <p>めあて 仲間と協力し、空間に走り込んでシュートを決めよう。</p> <p>☆ポイント</p> <p>【ボールを持っている時○】</p> <p>①ボールをキープする→ピポット ②空いている空間・仲間にパスを出す</p> <p>【ボールを持っていない時×】</p> <p>③空間に走り込む。</p> <p>○ペア活動 提示された例を参考に、ペアに課題や出来映えを伝えよう。</p>
